

「第2回たかつき NPO 協働フェスタ」を開催！！

実行委員長 遠矢 家永子

3月に実施した第1回フェスタの反省を踏まえ、もう少し気候のいい頃開催したいと5月31日に第1回企画会議を招集しました。企画会議を計3回実施する中で、大枠の企画をつめ、それを元に高槻市の決裁を受け、7月27日に第1回実行委員会を開催し、終了後も含め計10回に及ぶ実行委員会と、参画団体の皆さんとも一緒に計4回の拡大実行委員会を開催いたしました。

第2回フェスタは、たかつき市民活動ネットワークと高槻市市民公益活動サポートセンター管理運営委員会が、フェスタ実行委員会の中心となり、高槻市との共催、(社福)高槻市社会福祉協議会の協賛での開催としました。



「知って得する市民公益活動～知らなきゃあ損！損！～」と題して開催したフェスタですが、特に NPO 間の協働をこのフェスタを通して具体化できないかとの議論を踏まえ、各団体の単独ブースではなく、「子ども」「福祉」「環境」「文化・交流」といったテーマごとに6~8団体が協働でブースを受け持つこととしました。新しいやり方への抵抗感と、実際に忙しくしている NPO が時間調整をして協働でブースを展開する事がはたしてうまくいくのかどうかといった懸念もありましたが、それぞれの専門分野での知恵と労力を出し合い協働する事が、可能性の拡大へとつながる

ことを実感いたしました。

それ以外にも、ちらしやプログラム作成など、様々なプロジェクトで別途会議を開催していただき、またスタンプラリー・ビンゴゲーム・ステージイベント・交流会・お弁当の販売・テントでの工作・木工教室なども担当いただく NPO を決め、38 団体の知恵や労力を結集して当日を迎える事ができました。

また、地域創造ビジネスモデル事業・つどいの広場事業・協働活性化モデル事業などの協働ブースの展示へは、他の担当課の職員のみならずも参画され、第1回フェスタに比べれば、より多くの市職員のみなさんが来場されたことがもう一つの収穫であったと思います。

あいにくの雨で、来場者は前回並みとはいきませんでした。フェスタ当日までの出会いと協働の甲斐あって、とても楽しいフェスタとなりました。

一般市民のみなさんにどうすれば関心を持っていただけなのか、高槻市との協働をどうすればもっと実感できるフェスタとなるのかなど、課題はまだありますが、継続していく中から一步一步前進していけるものと思っています。

「次年度も開催したい！」との声が届く中、とりあえずは07年2月に新たな企画会議を招集する予定です。次回開催するにあたって、参加・参画頂ければと思います。



華やかで盛りだくさんのメイン・ステージ!

今回メイン・ステージの司会を務めてくださったのは、「たかつきまつり」でおなじみのアトム健児さんで、ステージイベントを楽しく盛り立ててくれました。オープニングでは芥川高校2年生の2人が結成する「THE ROLLING FUNK BROTHERS」によるダンス・パフォーマンス、それに引き続き始まった桂小春團治さんによる「NPO 落語」では観客席が和やかな笑いとともに「NPO」に関する豆知識も得る事ができ、ちょっと得をした気分になりました。

お昼時は、配食サービスグループによるお弁当で程よく空腹を満たし、日本ヘルマンハーブ協会による軽やかで美しいバリアフリー楽器ヘルマンハーブの響きで心もからだも、しばし癒された方が多かったのではないのでしょうか？



子どものブース

今回の協働フェスタで、「子どものブース」に8団体の参画がありました。活動内容も、乳幼児から青年期・食育と多岐にわたり、当初は協働作業の糸口を見出すのに四苦八苦しました。しかし、内容が固まるにしたがって、得意分野の展示素材が集まり、準備段階での協力体制も万全で、当日は「子どものブース」らしい和やかなテイストがかもし出されたとメンバー内では評価しています。一つの協働作業をやり遂げたメンバー同士としての連帯が生まれ、それぞれの活動内容も理解できたことで参画団体同士の協働できるヒントも見え、今後の事業展開に弾みがついた取り組みでした。

(三島子ども文化ステーション 堀越 小百合)

午後のステージは NPO ステージイベントと銘打って、紙芝居・人形劇・介護予防体操など盛りだくさんの内容でしたが、雨が降ったこともありせっかくの楽しいステージに子どもの観客が少なかったことが少し残念でした。

クロージングでのビンゴゲームは、おもちゃ箱の「さくらちゃん」とアトム健児さんの楽しい掛け合いで行われました。読み上げられる番号にカードを購入されたみなさんが一喜一憂しながら、すべての景品の行き先が無事決まり、メイン・ステージのすべてのパフォーマンスがにぎやかな歓声の中で幕を閉じました。なお、スタンプラリーの景品として、昨年に引き続き、明治製菓様よりマーブルチョコレートをご寄贈いただきました。(遠矢 家永子)



福祉のブース

福祉のブースには4つの市民活動団体と6つのNPO法人が集まった。配食サービスによる弁当・喫茶販売、街かどディサービスによる折り紙・絵手紙の実演コーナー、介護事業所による相談コーナー、福祉活動団体による高齢者疑似体験コーナー、消防署によるAED講習会など、様々な催しが開かれた。ブースは多くの来場者で賑わい、開催目的の一つである市民への周知については、ある程度達成できたと思われる。しかしながら、団体間のネットワーク構築や行政との協働という目的については、活動内容も成熟度も異なる各団体が、地域福祉の担い手として、今後どう手を取り合っていくのかが具体化されず、主催者側の今後の関わり方を含めて、次回の課題として残った。

(山本 泰代)

環境のブース

環境のブースでは、「EM 団子作りとごみ分別作業のエコ体験」「建築廃材で作成のアドバイス絵馬と自然素材の作品展示」「紙芝居やプロジェクターで雨水利用・地球温暖化防止・防災」等、盛りだくさんの内容で来場者と共に楽しいひと時を過ごしました。あいにくの雨で一般の来場者が少なく、顔見知りか、目立つブースになってしまったのは残念でした。けれども、今回のフェスタでは打ち合わせの過程や展示を通して、各団体の特色をより理解でき、お互いを知り合うことができました。それぞれが手を繋いで行くことが、環境問題解決への近道である事を実感しました。

(地球温暖化防止グループ 山本志津江)



行政協働モデル事業のブース

協働ブースは、コミュニティ推進課の「協働活性化モデル事業」、商工観光振興室の「大阪府地域創造ビジネスモデル構築事業」、児童福祉課の「つどいの広場事業」など協働事業として取り組んでいる事業を紹介いたしました。活動内容を紹介する写真を中心に展示するなど、まさに展示も、協働で進めることができました。今後とも NPO 協働フェスタを契機に協働がさらに進むことを願っています。(コミュニティ推進課 那須秀樹)

文化・交流のブース

文化・交流のブースでは、腹話術の布川さんのお子様？「さくらちゃん」のかわいい写真が迎えてくれました。大型スクリーンや4台のパソコンで参画団体の日常の活動を常時紹介する一方、小ステージを設け民謡「松の会」の三味線演奏、福祉演芸の「おもちゃ箱」の腹話術、難民支援ネットワーク「ラフィック」のアフガニスタン難民との対話などを実演・公開しました。高槻の赤小路コミセンをスタジオ拠点として活動する「NPO 法人高槻ブロードキャスト」は、ブース内に収録スタジオを設置し、インターネットラジオ番組を収録し、<http://www.tb171.net/>で全世界に向け放送しております。本ブースには2つのパソコン利用支援・指導を得意とする団体が参画しておりました。経理システムの「パルケ高槻」と自作のパソコンゲームを披露した「北摂 SITA の会」。それぞれの団体がその特技でブースの運営と市民へのアピールを行いました。



(北摂 SITA の会 岡村孝男)

子ども工作教室

子ども工作教室は、朝から今にも降りそうな空模様の中、室内の主会場とはかけ離れた北側の通路に設営のテント会場であり、天候同様客足が心配された。用意したのは、竹笛、竹にドングリ人形を付けた飾り物、木のスライス板に木の実を付けたブローチ、の3点でした。昼近くになり、隣の桃園小学校でのPRが効いたのか一挙に客足が増えて満席状態となった。一番人気は音が出る竹笛で、ピーと音が出た瞬間の嬉しそうな顔は何物にも換えがたい喜びであった。保護者から何故入口の横でしないのですか、と言う意見も聞かれた。怪我人も出ず、72名の参加者が有り、無事終了しました。

(ネイチャーたかつき 岡田 弘)

来て見て知った『楽しい木工教室』

屋外テントの木工ブースで前回と同様、木工教室を開設した。全体的に、雨のため、お客様の出足が悪かったのですが、午後からは来場者も増え、親子共々に、自然素材(木・竹)を使っての手づくり体験を楽しく過ごして頂きました。お客様より「自分達の地域で木工教室をやりたいので」と、詳しく問い合わせがあったこと、又 参加団体の中でネットワークの構築が出来たこと等、充実した嬉しいフェスタでした。

(幸せな家庭環境を考える会・北大阪支部 倉本喜八郎)



フェスタ参画団体の声

21団体がアンケートに答えていただきました。
ご協力有難うございました。

(1) 参画しての感想

84%の団体が「非常に良い」又は「良い」と評価。特に、初めて試みた分野別ブースは、団体間の交流が深まり好評。

(2) 次回開催について

57%の団体が次回も開催を希望。開催を希望しない団体は無かったが、態度保留が38%。開催時期、会場など内容次第と思われる。

(3) 会場(場所)について

61%の団体が「良かった」と評価。利便性はよいが、屋外テントをメイン会場に近い場所に配置する、会場を広くするなど適切な会場確保が課題。

(4) 開催日時について

52%の団体が「良かった」と評価。11月はイベントが重なるので少し時期を前にずらす方が良いなどの意見。

(5) 開催目的「市民活動団体の活動を市民に知らせる」の評価について

43%の団体が「あまり良くない」と評価。天候のせいもあるが、一般市民の参加が少なかったことがその理由。広報「たかつき」も含めて、PRが不足。

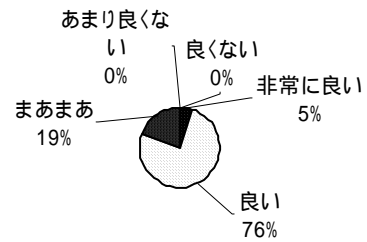
(6) 開催目的「市民活動団体のネットワークを構築する」の評価について

38%の団体が「良い」と評価。準備段階で他団体の活動内容を知り、顔の見える関係ができてよかったが、意思統一や調整の時間的余裕が足りなかった。

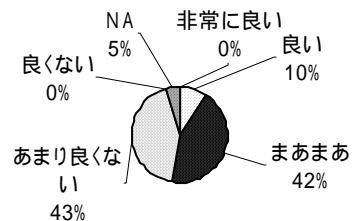
(7) 開催目的「市民活動団体と行政の協働を実践する」の評価について

39%の団体が「良くない」又は「あまり良くない」と評価。前回より前進したが、まだまだ行政内部の協働への認識が不足。

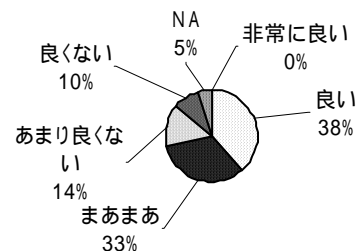
(1) 参画しての感想



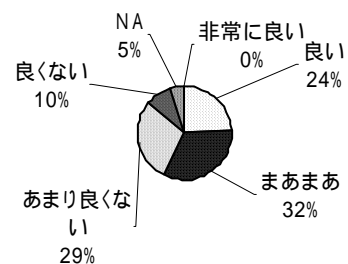
(5) 開催目的 について



(6) 開催目的 について



(7) 開催目的 について



第2回たかつきルネッサンス塾を開催

担当理事 山下征紀

第1回ルネッサンス塾でのミーティングの課題から、テーマを「地域再生とコミュニティ・スクール」と設定。29名(会員12名、<冊子>100項目購入者17名)の参加で、12月17日、交流センター5階視聴覚室にて、開催しました。前半プログラムは、事務局と有志メンバーとが事例を求めて京都市教育委員会と2つの学校を訪ね、コミュニティ・スクールの現状を学び4人がリレートークで報告しました。第2部は高槻市教育委員会からゲストを迎え、市の教育政策についての仕事内容を聞くチャンスとなり、ヒントとなる発見がありました。改正教育基本法13条で、学校、家庭と地域住民の協働が挿入されたこともあり、時期を得た話題提供にもなりました。第3回は2月3日(土)、会場は高槻西武です。ご期待下さい。

第15号・フェスタ特集号は、11名を超える方々に原稿作成を依頼し、集まりを心配しましたが、杞憂に終わり、流石に市民活動団体のリーダーでした。ノロウィルスが猛威を振っています。今年を示す一文字は「命」でした。良いお年をお迎えください。【緑】